

日本教育新聞に相模向陽館高校のことが紹介されました。

## 生徒との確かな関係づくり柱に

### 多部制の神奈川県立相模向陽館高校が来春開校

新しいタイプの県立高校づくりを進める神奈川県立相模向陽館高校、またユニークな公立校が誕生する。1日4時間、4年間じっくりと学ぶことができる多部制の県立相模向陽館高校(伊藤昭彦校長)。

「生徒との確かな関係づくり」を重視する学校づくりを目指し、開校準備の傍ら、教員らはカウンセリングマインド習得の研修を積み重ねている。

「今までには挫折体験が多かった子どもたちに、自己否定感の負のスパイラルが生まれるような対応を避けたい。また、もう一度やり直してみたいと願う子どもたちに、そのきっかけを与える」と、伊藤校長は話す。

「行動綱領は、いわばマニフェスト。集まった各140人を入学定員とする普通科として県立学校初の展開から学べる単位制による定時制課程の高校、各都とも45分間、4年間に設定した。

「行動綱領は、いわばマニフェスト。集まった各140人を入学定員とする普通科として県立学校初の展開から学べる単位制による定時制課程の高校、各都とも45分間、4年間に設定した。

「開校して1、2年の間に勝負。この学校は生徒の気持ちに寄り添い、より良い選択をしてもらうことが尽力するところだ」と、伊藤校長は語る。

「多部制の定時制高校であり、入学が想定されるのは、どちらかといえば中学時代まで大人たちからカミカミ言われたり、批判されたりすることが多く、その結果、遠慮がちであったり、あるいは不登校を経験するなどの、自己肯定感が持たない生徒たち。

「多部制の定時制高校であり、入学が想定されるのは、どちらかといえば中学時代まで大人たちからカミカミ言われたり、批判されたりすることが多く、その結果、遠慮がちであったり、あるいは不登校を経験するなどの、自己肯定感が持たない生徒たち。

「多部制の定時制高校であり、入学が想定されるのは、どちらかといえば中学時代まで大人たちからカミカミ言われたり、批判されたりすることが多く、その結果、遠慮がちであったり、あるいは不登校を経験するなどの、自己肯定感が持たない生徒たち。



また、開校から25年度までの4カ年を第一期中

「生徒との確かな関係づくり」を重視する学校づくりを目指し、開校準備の傍ら、教員らはカウンセリングマインド習得の研修を積み重ねている。

「開校して1、2年の間に勝負。この学校は生徒の気持ちに寄り添い、より良い選択をしてもらうことが尽力するところだ」と、伊藤校長は語る。

「開校して1、2年の間に勝負。この学校は生徒の気持ちに寄り添い、より良い選択をしてもらうことが尽力するところだ」と、伊藤校長は語る。